2006 4

ったところも多かったはずで う。だが、一方では入学定員 せている諸君も多いことだろ り、新学期に備えて胸を躍ら が追加合格の電話をかけまく 大学においてさえ、事務当局 の確保もままならず、国公立 大学入試のシーズンも終わ

なくなりつつあるようだ。 ったひどい状況も笑い事では 前を書くだけで合格するとい 平当の学力試験ではなく、名 ようであり、入試といっても 八学定員を確保できなかった なぜこんなことになってし 本年は私立大学の約四割が

まったのだろうか。 学だけで七百十五校(国立八 十七校、公立七十三校、私立 わが国には現在、四年制大 ような状況を忘れてはならな 0

れた留学生を確保し、人材養 教育を重要な「輸出産業(優 して、アジア諸国も今や高等 的な通用性をもっていない。 ルなどをトップランナーと そうしたなかで、シンガポ E

本の特性とはいえ、全く国際

るのである。

た。そこにおいて博士号を取

の現場がいかに受け止め、 あるが、問題は大学・大学院

対

問的素養も身につけず、入学

個性的な自己発見のための学

いると実感できる理由をここ 国際レベルを大きく下回って とはいえ、教育機関としては としては有力大学がかろうじ て国際レベルを保持している わが国の大学が、研究機関

が、わが国の大学には概して 得するまでの厳しい教育課程 欠如していたのである。

合のこの点での危機意識か わが国の将来を見据えた場 応するかであろう。

べき学士課程としての大学の 次に高等教育の基盤をなす

ら、文部科学省の中央教育審 るけれど、よく言われる学生 学部が、ここでの大問題であ

えない。明治維新以来、近代 けているというのに、高等教 を得られる)」として位置付 化に成功したわが国に学ぼう すでに見たように、憂慮に堪 育をめぐるわが国の現状は、 成に資することで多額の収益

と、多くの優秀な若者がアジ ア諸国からやってきたときの



嶺雄

0

で指摘してみよう。

沫若、周作人、夏衍らの学者 梁啓超らの改革派、魯迅や郭 も孫文はもとより、康有為や 問題は現場の取り組みに 思い起せば、中華世界から 博士学位授与機関としての機 で教育機関ないしは米国の博 能を十分果たしていなかった の大学院に関しては、これま 士号(Ph.D.)に相当する まず高等教育の中核として

ローバル化のなかで、国際的 多すぎる半面、知の世界のグ 五百五十五校)と大学の数が

るといった大学があまりにも

や文人をはじめ、現代の政治

留学生が全世界からやってく レベルで競争ができ、優秀な

少ないからでもある。第一、

大学の新学期が四月からとい

会系の優秀な人材は、欧米の ために、少なくとも人文・社 系 は、初めて人社系、理工農 としてかかわったこの答申 る大学院教育の構築に向けて 大学院教育―国際的に魅力あ した。私自身、大学院部会長 - 』と題する重要な答申を出 医療系の各ワーキンググ プでの個別的討議を重

ね、さらに大学院部会や大学 議会は昨年九月、 『新時代の 準の改定(いわゆる「大綱 ら、一九九一年の大学設置基 を除き、わが国の大学の学部 の学力低下もさることなが 教育が消えてしまったところ から教養(リベラルアーツ) 化」)によって、一部の例外 考えている。 に、最大の問題があると私は 教養教育の重要な一環とし

> 如憂 え 欠 閉じ込められる学生たちは、 早々から専門教育の小部屋に や大学の名に値しない。 しまうとすれば、それはもは ような状況が支配的になって 考えがちになっている。この 格の取得が大学での目的だと もっぱらスキル(技能)や資 動き始めた新たなる試み《《《

新たな挑戦を試みている。 国際教養大学が新設されて、 学国際教養学部などが、そし 田大学国際教養学部、上智大 に加え、別府の立命館アジア ある国際基督教大学(ICU) て二年前には秋田に私たちの 太平洋大学(APU)や早稲 英語教育と教養教育に伝統の そうした状況下で最近は、

養教育

生を集めている。日本の大学 ことにも注目したい。 に真にグローバル化に対応す れぞれに個性的な大学づくり 共通のコンセプトの下で、そ る新しい動きが出始めてい を目指し、全国から優秀な学 業を行う「国際教養」という これらの大学は、英語で授

学 含

め

教

なかじま みねお

うのは、

「サクラ文化」の日

が日本に来て多くを学んでい

学位を取得する傾向にあっ トップクラスの大学に行って

分科会での審議を経たもので

ての外国語教育はもとより、

志、さらには台湾の李登輝ら 豕でも周恩来、蔣介石、廖承